会派代表質問

安心安全な市民生活のために（社会資本整備事業について）

自民　小倉 利昭 議員

問　国道128号4車線化工事について①工事区間は、どこからどこまでか②工期は、いつごろ完成するのか③工事額は、いくらか。まずこの3点について伺います。

答　二級河川小中川からコメリパワー大網白里店付近まで延長2．2キロ区間を総事業費18億円で整備しています。これまでに小中川から分庁舎のある経田交差点までの0．7キロが令和2年3月に供用開始し、現在は経田交差点からコメリパワーまでの1．5キロ区間で工事を進めており、令和5年度中の4車線化を目指して整備を行っています。

問　次に再三の質問ですが、小中川堤防の護岸復旧工事について進捗状況を伺います。

答　二級河川小中川の原台橋から南飯塚橋まで7か所ある洗堀箇所の復旧工事の進捗状況について、河川管理者である千葉県に確認いたしました。令和3年度に1か所の護岸復旧工事を完成し、残る6か所の内、令和4年度に1か所の工事と2か所の実施設計を予定しているとのことです。今年度に予定していた護岸復旧工事の進捗状況は今関橋から約300m下流左岸の工事は年度内に完成する見込みであり、原台橋から約300m下流右岸1か所左岸1か所については、測量及び実施設計が完了したとのことです。

問　次に増穂地区の道路整備について伺います。南横川以後田地区排水整備事業の進捗状況はいかがでしょう。

答　今年度より工事に着手しており、全長165mの内下流側40mを整備したところです。令和5年度の予定は今年度と同程度の延長を整備したいと考えております。

問　次に、増穂幼稚園南側の歩道整備の進捗はいかがでしょうか。

答　増穂幼稚園南側の歩道整備につきましては、現在におきましても用地について地権者のご理解が得られていない状況であります。このため歩行者の安全対策として、昨年度より継続的に道路舗装や土留めの補修、白線の引き直し工事を実施し、歩行者の安全確保に努めているところでございます。

問　数年にわたり土留めや舗装をして白線も引き直しして頂き現状は、歩道の機能は果しているとおもいますが、やはり小中学生の通学路であり、朝夕の交通量は、相当のものです。子どもたちの大切な命を守るため、完全な歩道の実現を願うばかりです。そこで以前より提案してありますが、車道をはさんで反対側の排水路を利用して、歩道を作るという考えはいかがでしょうか。

答　ご提案いただきました道路の拡幅でございますが、現道西側の用地を舗装した場合は、前後にある既存道路とのカーブがきつくなるなどの課題があり、道路線形の見直しも必要となることから、慎重に検討したいと考えております。

既存道路の状態では、課題が多いとのこと理解致しました。いずれにしても幼稚園、小学校、中学校の子どもたちの通学路として、重要な箇所です。一日も早く、安心安全な通学が出来ますよう、執行部のご尽力をお願い致しまして、私の代表質問を終わります。

関連質問

土屋 忠和 議員

○社会資本整備事業　四天木堀川に架かる下谷橋梁の修繕について。

問　四天木地区を流れる堀川河川に架かるこの橋は、昭和61年の完成以来、多くの住民の交通網の要として人や物が通い、白里地域では無くてはならない橋の一つです。私による現地確認では、橋の欄干部分のサビが酷く、路床コンクリートは摩耗し、橋脚部分の間知石の土留めや両端のアスファルト舗装は、所々に不具合と劣化の影響が、見受けられます。さて、担当課は、下谷橋の経年劣化による修繕工事の要望に対し、どう対処をして行くお考えか、伺います。

答　平成29年度に実施した橋梁点検の際には、経年による部分的な劣化は見られるものの、橋梁の機能には支障がない状態と結果報告をされております。しかしながら、市と致しましては、令和5年度中に再度、橋梁点検を予定しており、その結果に応じて橋梁長寿命化修繕計画を見直し、ご質問の下谷橋の修繕等につきましては、検討してまいります。

この下谷橋の下流に位置する補修工事を執行した竜宮橋と同様に引き続き、白里地域に実在する橋の長寿命化の促進を宜しくお願い致します。

○ほかに2つ、質問を致しました。

①　白里中央海岸事故発生時の緊急自動車交通路について伺う。多くの人々が、海岸に集まった状態で何らかの事故に遭い、緊急自動車の要請をした際に、中央トンネル入り口は、混雑して出入りが困難なことも考えられます。中央以外にもう1か所補助的な役割をもつ北側トンネルからの入り口が必要不可欠と考えられ、接する市道の整備を要望致しました。

②　白里中、通学路横断歩道わきの待機場整備について伺う。細草地区。本市の救急医療体制について。

関連質問

中野 修 議員

消防署、救急隊の出動状況について。

問　常備消防であります山武消防の救急隊が出動件数と長時間の連続出動が大変多くなっていると聞いております。出動したまま署に戻ることなく次の搬送場所に直行するケースが増えており、例えば朝出動し、連続が続き、昼食も取れず、夕方になっても署に戻れないこともあり、12時間を超える長時間出動の場合もあると聞いております。また、救急隊が山武消防全ての署所に1台もいない状態になることもあり、その際は近隣の消防本部から応援をいただいている状況もあるようです。そこで伺います。本市に署がございます南消防署救急隊の出動状況について直近の出動件数をお願いします。

答　山武郡市広域行政組合消防本部に確認したところ、令和元年が1963件、令和2年が1825件、令和3年が1823件、令和4年が1947件とのことでした。なお、平成25年4月1日より救急通報は千葉市消防共同指令センターに入電され、発生事案に一番近く対応可能な署隊が選定され、出動するとのことです。

東京消防庁の救急隊が横転事故を起こした事案がありました。17時間の連続出動で居眠りが原因であったようです。このようなことは絶対にあってはなりません。平成19年4月から東金市にあります中央消防署で救急隊の2隊運用が始まりました。南署救急隊も中央署2隊運用開始前の出動件数にはるかに近い状況です。市民の皆様だけではなく、山武消防管内の皆様の安心・安全のため、加えて救急隊の長時間連続出動を軽減するためにも、南署に救急隊の1隊増隊が必要だと考えます。

個人質問

LGBTQの差別をなくそう。パートナーシップ制度の導入を！

黒須 俊隆 議員

国会では、LGBT理解増進法が議論されています。当事者からは、理解増進法ではなく、差別禁止法が必要だという訴えも出ていることは承知しています。首相補佐官が「隣に住むのも嫌だ」と発言したり、内閣政務官が「生産性がない」などと言うのは、子どもを社会で育てるという意識が軽薄なのでしょう。親のない子どもを引き取り育てている同性婚カップルはたくさんいます。

さてパートナーシップ制度を導入し、戸籍上同性カップルに対し婚姻と同等の証明書を発行する自治体が増えています。千葉県でも、千葉市、浦安、船橋、習志野、市川、松戸と6つの自治体が導入し、人口カバー率では約47％、もうすぐ50％を超える状況です。

問　市は、条例制定あるいは運用においてどのような考えを持っているかお聞かせください。

答　LGBTQの方々は、周囲の理解不足や偏見などにより社会の中で様々な困難に直面していることから、パートナーシップ制度は必要であると認識しています。市としては、まず多様な性の在り方についてより理解を深め、誰もが個人として尊重され、それぞれの能力と個性を十分に発揮し、安心して充実した生活を送ることができるよう、LGBTQに関する正しい情報の提供、理解促進のための啓発活動を進めていきたいと考えています。

運用や基準を定めて実施している公的サービスにつきましては、現在のところ、特に行っていないことから、今後はサービスの向上を図るため、先進事例を調査研究してまいります。

条例ができればかなり様々なことができることはほかの自治体の事例からも分かっています。市の証明がないとアパートを借りるのも難しかったりします。

問　大網病院では面会や病状説明等について、同性婚カップルでもできますか。

答　大網病院に入院される場合、患者さんの病状説明を行うときまたは病状が急変したときの連絡先を患者さんに決めていただきます。連絡先の人数につきましては、お一人では連絡が取れない場合もありますので、可能な限り優先順位をつけて複数の連絡先を決めていただいています。連絡先については、患者さんを直接支援している方としており、患者さんがパートナーの方を選定した場合、その意向に沿って連絡先となっていただいています。

入院患者さんが意思を表明できる状況では、同性パートナーの面会や病状説明を受けられるということですが、手続き前に意識がなくなった場合など課題があると思います。できるだけ差別が解消されるような状況をつくっていただきたい。

問　同性パートナーでもマタニティ教室に参加できますか。

答　パートナーであってもマタニティ教室に参加する意思があれば、参加していただきたいというふうに捉えております。

大網病院及びマタニティ教室の話でありましたが、このように既に運用面で市がやっていることもあります。一人ひとりの個性を大切にする社会実現に向けて市がさらに積極的に動いていただくことを要望します。